

# 2018年3月期 第2四半期決算説明会



2017年10月31日  
西日本旅客鉄道株式会社



I	2018年3月期 第2四半期決算実績	…	2
II	2018年3月期 通期業績予想	…	11
III	各事業の取り組み	…	18
IV	設備投資計画、株主還元	…	28
V	次期中期経営計画に向けて	…	31

**I** 2018年3月期 第2四半期決算実績

---

II 2018年3月期 通期業績予想

---

III 各事業の取り組み

---

IV 設備投資計画、株主還元

---

V 次期中期経営計画に向けて

---

# 決算ハイライト

(単位：億円)

	2017年3月期 2Q累計実績	2018年3月期 2Q累計実績	対前年		2017年3月期 通期実績	2018年3月期通期		対前年		対予想 増減
			増減	比率(%)		前回(7/28) 予想	今回(10/30) 予想	増減	比率(%)	
			B-A	B/A		D	E	E-C	E/C	
A	B			C						
<b>【連結】</b>										
営業収益	7,003	7,271	+267	103.8	14,414	14,920	14,970	+555	103.9	+50
営業利益	983	1,112	+128	113.1	1,763	1,835	1,855	+91	105.2	+20
経常利益	885	1,026	+141	116.0	1,607	1,685	1,705	+97	106.0	+20
親会社株主に帰属する 四半期(当期)純利益	571	678	+107	118.8	912	1,090	1,105	+192	121.0	+15
<b>【単体】</b>										
営業収益	4,754	4,854	+100	102.1	9,561	9,670	9,720	+158	101.7	+50
運輸収入	4,228	4,336	+107	102.5	8,496	8,590	8,640	+143	101.7	+50
営業費用	3,940	3,947	+7	100.2	8,206	8,280	8,310	+103	101.3	+30
人件費	1,113	1,091	▲ 21	98.0	2,233	2,215	2,205	▲ 28	98.7	▲ 10
物件費	1,814	1,835	+20	101.1	3,943	4,030	4,060	+116	102.9	+30
動力費	206	222	+16	107.8	405	465	450	+44	110.9	▲ 15
修繕費	680	669	▲ 10	98.4	1,571	1,580	1,600	+28	101.8	+20
業務費	927	942	+15	101.6	1,966	1,985	2,010	+43	102.2	+25
減価償却費	664	668	+4	100.7	1,376	1,370	1,380	+3	100.3	+10
営業利益	813	906	+92	111.4	1,354	1,390	1,410	+55	104.1	+20
経常利益	708	811	+103	114.6	1,184	1,230	1,250	+65	105.5	+20
四半期(当期)純利益	469	558	+89	119.1	708	830	845	+136	119.3	+15

# 単体損益計算書

(単位：億円)

	2017年3月期 2Q累計実績 A	2018年3月期 2Q累計実績 B	対前年	
			増減 B-A	比率(%) B/A
営業収益	4,754	4,854	+100	102.1
運輸収入	4,228	4,336	+107	102.5
その他収入	525	518	▲ 7	98.6
営業費用	3,940	3,947	+7	100.2
人件費	1,113	1,091	▲ 21	98.0
物件費	1,814	1,835	+20	101.1
動力費	206	222	+16	107.8
修繕費	680	669	▲ 10	98.4
業務費	927	942	+15	101.6
線路使用料等	151	150	▲ 0	99.5
租税公課	197	202	+4	102.5
減価償却費	664	668	+4	100.7
営業利益	813	906	+92	111.4
営業外損益	▲ 105	▲ 94	+10	89.9
営業外収益	13	13	+0	—
営業外費用	118	108	▲ 10	—
経常利益	708	811	+103	114.6
特別損益	▲ 29	▲ 7	+21	—
特別利益	43	34	▲ 9	—
特別損失	72	42	▲ 30	—
四半期純利益	469	558	+89	119.1

# 運輸収入の主な増減要因

(単位：億円)

		2018年3月期 2Q累計実績			
		運輸収入	対前年	主な増減要因	
新幹線	2,226	+76 (103.5%)	基礎トレンド(101.6%)		+33
			特殊要因	・熊本地震反動	+27
				・GW好調	+7
				・インバウンド	+1
	・シニア	+1			
			等		
在来線	1,556	+26 (101.7%)	基礎トレンド(101.3%)		+20
			特殊要因	・インバウンド	+3
				・GW好調	+2
				・シニア	+0
		等			
在来線	553	+5 (100.9%)	基礎トレンド(100.2%)		+1
			特殊要因	・GW好調	+1
				・インバウンド	+0
				・シニア	+0
		等			
在来線計		2,109	+31 (101.5%)		
運輸収入計		4,336	+107 (102.5%)		

※荷物収入は金額些少のため省略

# 運輸収入と旅客輸送量の実績

運輸収入

(単位：億円)

輸送人キロ

(単位：百万人キロ)

	2Q累計実績 (4/1~9/30)			2Q実績 (7/1~9/30)			2Q累計実績 (4/1~9/30)			2Q実績 (7/1~9/30)		
	2017年 3月期	2018年 3月期	対前年	2017年 3月期	2018年 3月期	対前年	2017年 3月期	2018年 3月期	対前年	2017年 3月期	2018年 3月期	対前年
全社計	4,228	4,336	+107 102.5%	2,195	2,225	+30 101.4%	29,281	29,881	+599 102.0%	15,038	15,214	+176 101.2%
新幹線	2,150	2,226	+76 103.5%	1,138	1,153	+14 101.3%	10,004	10,407	+403 104.0%	5,345	5,408	+62 101.2%
定期	51	54	+3 106.3%	26	27	+1 104.6%	415	431	+15 103.8%	205	215	+9 104.7%
定期外	2,099	2,172	+72 103.5%	1,112	1,126	+13 101.2%	9,588	9,976	+388 104.0%	5,140	5,193	+52 101.0%
在来線	2,078	2,109	+31 101.5%	1,056	1,072	+15 101.5%	19,277	19,473	+195 101.0%	9,692	9,806	+113 101.2%
定期	720	722	+1 100.3%	354	359	+5 101.4%	11,733	11,803	+69 100.6%	5,756	5,800	+44 100.8%
定期外	1,357	1,386	+29 102.2%	702	713	+10 101.5%	7,544	7,670	+126 101.7%	3,936	4,005	+69 101.8%
近畿圏	1,529	1,556	+26 101.7%	769	782	+12 101.6%	15,043	15,211	+168 101.1%	7,515	7,599	+84 101.1%
定期	591	594	+2 100.4%	290	295	+4 101.6%	9,616	9,678	+62 100.6%	4,725	4,764	+38 100.8%
定期外	938	962	+24 102.6%	479	486	+7 101.7%	5,427	5,532	+105 101.9%	2,790	2,835	+45 101.6%
その他	548	553	+5 100.9%	286	289	+3 101.1%	4,234	4,261	+27 100.7%	2,177	2,206	+29 101.4%
定期	129	128	▲0 99.6%	63	63	+0 100.8%	2,116	2,124	+7 100.4%	1,030	1,036	+5 100.6%
定期外	418	424	+5 101.4%	223	226	+2 101.1%	2,117	2,137	+20 101.0%	1,146	1,170	+23 102.1%

# 単体営業費用の主な増減要因

(単位：億円)

科目	2018年3月期 2Q累計実績		
		対前年	主な増減要因
人件費	1,091	▲ 21 (98.0%)	・人員差 等
動力費	222	+16 (107.8%)	・燃料費調整額増等+17 等
修繕費	669	▲ 10 (98.4%)	・構造物対策経費減▲4 等
業務費	942	+15 (101.6%)	・新制服導入+13 ・システム関連経費増+5 等
線路使用料等	150	▲0 (99.5%)	
租税公課	202	+4 (102.5%)	・固定資産税増 等
減価償却費	668	+4 (100.7%)	
営業費用計	3,947	+7 (100.2%)	



# 連結損益計算書

(単位：億円)

	2017年3月期 2Q累計実績 A	2018年3月期 2Q累計実績 B	対前年	
			増減 B-A	比率(%) B/A
営業収益	7,003	7,271	+267	103.8
営業費用	6,020	6,158	+138	102.3
営業利益	983	1,112	+128	113.1
営業外損益	▲ 98	▲ 85	+12	86.8
営業外収益	22	26	+3	-
営業外費用	121	111	▲ 9	-
経常利益	885	1,026	+141	116.0
特別損益	▲ 38	▲ 13	+25	-
特別利益	51	51	+0	-
特別損失	90	64	▲ 25	-
親会社株主に帰属する 四半期純利益	571	678	+107	118.8
四半期包括利益	557	701	+144	125.9

(単位：億円)

	2017年3月期 2Q累計実績 A	2018年3月期 2Q累計実績 B	対前年	
			増減 B-A	比率(%) B/A
営業収益 <sup>*1</sup>	7,003	7,271	+267	103.8
運輸業	4,617	4,727	+109	102.4
流通業	1,149	1,175	+26	102.3
物販・飲食	758	802	+44	105.9
【宿泊特化型ホテル】(再掲) <sup>*2</sup>	【54】	【56】	【+2】	【104.2】
百貨店	350	330	▲ 19	94.4
不動産業	504	687	+182	136.3
ショッピングセンター	301	291	▲ 9	96.9
不動産賃貸・販売	193	385	+191	199.0
【不動産販売】(再掲)	【40】	【171】	【+131】	【428.1】
その他	733	681	▲ 51	93.0
ホテル	178	176	▲ 2	98.7
旅行	194	193	▲ 1	99.0
営業利益 <sup>*1</sup>	983	1,112	+128	113.1
運輸業	745	835	+89	112.1
流通業	25	33	+8	131.9
物販・飲食	28	32	+3	113.0
百貨店	▲ 4	▲ 0	+3	-
不動産業	168	198	+30	118.1
ショッピングセンター	52	44	▲ 8	83.9
不動産賃貸・販売	57	103	+46	181.7
その他	41	32	▲ 9	77.6
ホテル	13	8	▲ 5	62.0
旅行	▲ 3	▲ 7	▲ 4	-

<sup>\*1</sup> 各セグメントの内訳は、主な子会社の合計値であり、セグメント計と一致しません。

<sup>\*2</sup> 宿泊特化型ホテル「ヴィアイン」の合計値です。ただし、下関店（非連結）、浅草店（その他業）、広島銀山町店（その他業）は除きます。

# 連結財政状況およびキャッシュフロー計算書

(単位：億円)

	2017年3月期 期末 A	2018年3月期 2Q期末 B	増減 B-A
資産	30,078	30,115	+37
負債	19,752	19,226	▲525
純資産	10,326	10,889	+563
長期債務残高	10,379	10,611	+231
【長期債務平均金利 (%)】	【1.97】	【1.94】	【▲0.03】
新幹線債務	1,046	1,042	▲4
【新幹線債務平均金利 (%)】	【6.55】	【6.55】	【-】
社債	5,349	5,549	+200
【社債平均金利 (%)】	【1.75】	【1.73】	【▲0.02】
自己資本比率 (%)	31.3	33.0	+1.7
1株当たり純資産 (円)	4,857.50	5,141.03	+283.53

	2017年3月期 2Q累計実績 A	2018年3月期 2Q累計実績 B	対前年増減 B-A
営業活動によるキャッシュフロー	564	996	+432
投資活動によるキャッシュフロー	▲ 799	▲ 627	+172
フリーキャッシュフロー	▲ 235	369	+604
財務活動によるキャッシュフロー	▲ 21	▲ 237	▲ 215
現金及び現金同等物の増減	▲ 256	140	+396
現金及び現金同等物の期末残高	550	773	+223

I 2018年3月期 第2四半期決算実績

---

**II 2018年3月期 通期業績予想**

---

III 各事業の取り組み

---

IV 設備投資計画、株主還元

---

V 次期中期経営計画に向けて

---

# 単体業績予想

(単位：億円)

	2017年3月期 通期実績 A	2018年3月期通期		対前年		対予想 増減 C-B
		前回(7/28) 予想 B	今回(10/30) 予想 C	増減 C-A	比率(%) C/A	
営業収益	9,561	9,670	9,720	+158	101.7	+50
運輸収入	8,496	8,590	8,640	+143	101.7	+50
その他収入	1,064	1,080	1,080	+15	101.5	-
営業費用	8,206	8,280	8,310	+103	101.3	+30
人件費	2,233	2,215	2,205	▲ 28	98.7	▲ 10
物件費	3,943	4,030	4,060	+116	102.9	+30
動力費	405	465	450	+44	110.9	▲ 15
修繕費	1,571	1,580	1,600	+28	101.8	+20
業務費	1,966	1,985	2,010	+43	102.2	+25
線路使用料等	302	305	305	+2	100.7	-
租税公課	349	360	360	+10	102.9	-
減価償却費	1,376	1,370	1,380	+3	100.3	+10
営業利益	1,354	1,390	1,410	+55	104.1	+20
営業外損益	▲ 170	▲ 160	▲ 160	+10	94.1	-
営業外収益	61	60	60	▲ 1	-	-
営業外費用	231	220	220	▲ 11	-	-
経常利益	1,184	1,230	1,250	+65	105.5	+20
特別損益	▲ 165	▲ 30	▲ 30	+135	-	-
特別利益	183	-	-	-	-	-
特別損失	349	-	-	-	-	-
当期純利益	708	830	845	+136	119.3	+15

# 運輸収入の見通し

(単位：億円)

		2017年3月期 通期実績 A	2018年3月期通期		対前年		対予想 増減 C-B
			前回(7/28) 予想 B	今回(10/30) 予想 C	増減 C-A	比率(%) C/A	
新幹線		4,346	4,417	4,446	+100	102.3	+29
在 来 線	近畿圏	3,050	3,062	3,082	+32	101.1	+20
	その他	1,100	1,110	1,110	+9	100.9	▲0
	在来線計	4,150	4,172	4,193	+42	101.0	+20
運輸収入計		8,496	8,590	8,640	+143	101.7	+50

※ 荷物収入は金額些少のため省略

# 単体営業費用の見通し

(単位：億円)

科目	2018年3月期 通期見通し			
		対前年	主な対前年増減要因	対前回
人件費	2,205	▲ 28 (98.7%)	・人員差 等	▲ 10
動力費	450	+44 (110.9%)	・燃料費調整額増 等	▲ 15
修繕費	1,600	+28 (101.8%)	・部外関連工事増 等	+20
業務費	2,010	+43 (102.2%)	・システム関連経費増 ・燃料費調整額増 等	+25
線路使用料等	305	+2 (100.7%)		-
租税公課	360	+10 (102.9%)	・固定資産税増 等	-
減価償却費	1,380	+3 (100.3%)		+10
営業費用計	8,310	+103 (101.3%)		+30

# 連結業績予想

(単位：億円)

	2017年3月期 通期実績 A	2018年3月期通期		対前年		対予想 増減 C-B
		前回(7/28) 予想 B	今回(10/30) 予想 C	増減 C-A	比率(%) C/A	
営業収益	14,414	14,920	14,970	+555	103.9	+50
営業費用	12,650	13,085	13,115	+464	103.7	+30
営業利益	1,763	1,835	1,855	+91	105.2	+20
営業外損益	▲ 156	▲ 150	▲ 150	+6	96.1	-
営業外収益	80	72	72	▲ 8	-	-
営業外費用	237	222	222	▲ 15	-	-
経常利益	1,607	1,685	1,705	+97	106.0	+20
特別損益	▲ 230	▲ 40	▲ 40	+190	-	-
特別利益	196	-	-	-	-	-
特別損失	426	-	-	-	-	-
親会社株主に帰属する 当期純利益	912	1,090	1,105	+192	121.0	+15
1株当たり当期純利益 (円)	471.52	563.00	570.75	-	-	-



# 連結業績予想(セグメント別)

(単位：億円)

	2017年3月期 通期実績 A	2018年3月期通期		対前年		対予想 増減 C-B
		前回(7/28) 予想 B	今回(10/30) 予想 C	増減 C-A	比率(%) C/A	
営業収益 <sup>*1</sup>	14,414	14,920	14,970	+555	103.9	+50
運輸業	9,291	9,390	9,465	+173	101.9	+75
流通業	2,339	2,408	2,408	+68	102.9	-
物販・飲食	1,525	1,642	1,622	+96	106.3	▲ 20
【宿泊特化型ホテル】(再掲) <sup>*2</sup>	【108】	【117】	【117】	【+9】	【108.5】	【-】
百貨店	734	686	706	▲ 28	96.1	+20
不動産業	1,095	1,387	1,387	+291	126.6	-
ショッピングセンター	605	591	591	▲ 14	97.6	-
不動産賃貸・販売	472	777	777	+304	164.6	-
【不動産販売】(再掲)	【161】	【349】	【349】	【+188】	【217.1】	【-】
その他	1,688	1,735	1,710	+21	101.3	▲ 25
ホテル	362	359	359	▲ 3	99.2	-
旅行	420	435	410	▲ 10	97.5	▲ 25
営業利益 <sup>*1</sup>	1,763	1,835	1,855	+91	105.2	+20
運輸業	1,217	1,251	1,271	+53	104.4	+20
流通業	52	70	70	+17	133.3	-
不動産業	322	355	355	+32	110.2	-
その他	204	190	190	▲ 14	92.8	-

\*1 各セグメントの内訳は、主な子会社の合計値であり、セグメント計と一致しません。

\*2 宿泊特化型ホテル「ヴィアイン」の合計値です。ただし、下関店（非連結）、浅草店（その他業）、広島銀山町店（その他業）は除きます。

(単位：人、億円)

	2017年3月期 2Q累計実績		2018年3月期 2Q累計実績		2017年3月期 通期実績		2018年3月期 通期予想(10/30)	
	連結	単体	連結	単体	連結	単体	連結	単体
連結ROA (%)	3.5		3.7		6.0		6.2	
連結ROE (%)	6.4		7.0		10.0		11.3	
連結EBITDA <sup>*1</sup>	1,768		1,916		3,391		3,517	
連結減価償却費	785		798		1,627		1,650	
連結設備投資 (自己資金)	724		593		1,924		1,660	
単体設備投資 (自己資金)	577		417		1,598		1,300	
安全関連投資	405		284		1,050		790	
1株当たり配当金 (円)	70		80		140		160	

\*1 EBITDA = 営業利益 + 減価償却費 + のれん償却額

	2017年3月期 2Q累計実績		2018年3月期 2Q累計実績		2017年3月期 通期実績		2018年3月期 通期予想(10/30)	
	連結	単体	連結	単体	連結	単体	連結	単体
期末従業員数 (就業人員)	47,303	25,905	47,814	25,381	47,382	25,821	—	—
金融収支	▲ 111	▲ 106	▲ 101	▲ 96	▲ 216	▲ 210	▲ 203	▲ 196
受取利息・配当金	3	8	3	8	6	11	7	12
支払利息	114	114	105	104	223	222	210	208

I 2018年3月期 第2四半期決算実績

---

II 2018年3月期 通期業績予想

---

**III 各事業の取り組み**

---

IV 設備投資計画、株主還元

---

V 次期中期経営計画に向けて

---



# 運輸業：新幹線②

## 主な取り組み

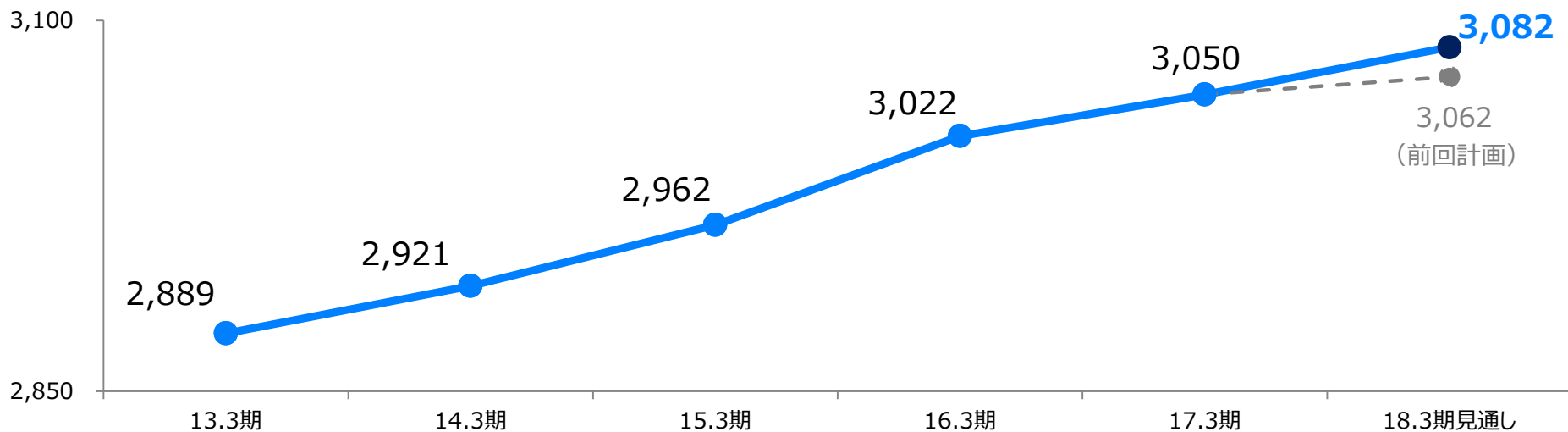
		18年3月期 上期	18年3月期 下期	19年3月期以降
競争力 向上	山陽新幹線			
	ネット予約	e5489リニューアル	スマートEX利用開始	
	新車投入	N700A（3編成）		N700A（12編成）
	北陸新幹線			
	ビジネス需要	「出張応援キャンペーン」		
	利便性向上			携帯電話不感地対策 (金沢～新親不知トンネル西側)
	路線延伸			敦賀延伸
観光需要 喚起	山陽新幹線			
	観光キャンペーン	「幕末維新やまぐちデスティネーションキャンペーン」「熊本・大分キャンペーン」		山口県との「観光維新共同宣言」(山口アフターDCの成果最大化)
	北陸新幹線			
	観光キャンペーン	「日本の美は、北陸にあり。」「四季の美 五ツ星。」		<p>Destination Yamaguchi 1150 維新の風が誘う。 おもしろき国 山口 幕末維新やまぐちデスティネーションキャンペーン</p>
	共通	「Japanese Beauty Hokuriku」 「JR Snow Resort 2017-2018」		
		インバウンド	(→P.27)	
	シニア	「おとなび」会員拡大 (会員登録 <b>106</b> 万人 17年9月末)、会員専用商品設定		
	地域との連携	福井支店設置		

競争力向上、観光需要喚起の両面からご利用拡大を図る。

# 運輸業：近畿圏等①

## 近畿圏運輸収入の推移（通期）

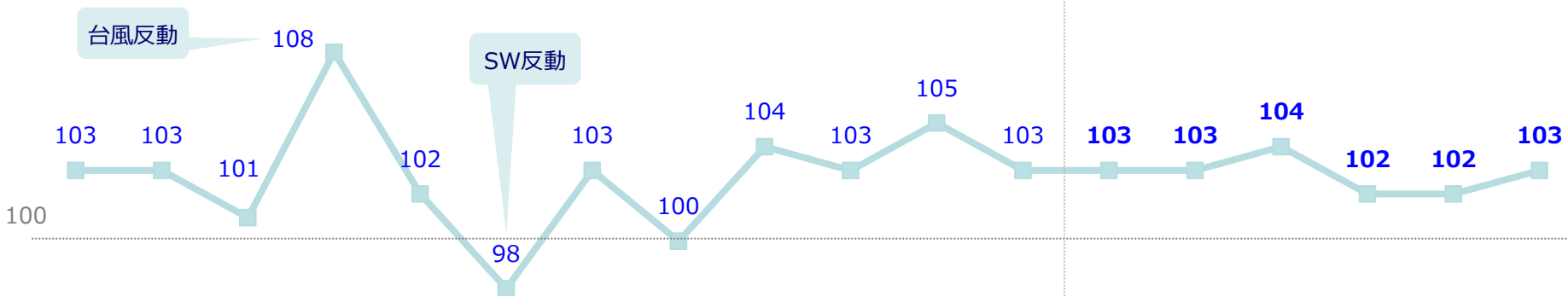
（単位：億円）



## ご利用状況（前年比）の推移

※近距離券発売枚数

（単位：%）



17.3期

※16年2月がうるう年のため、1日平均の前年比

18.3期

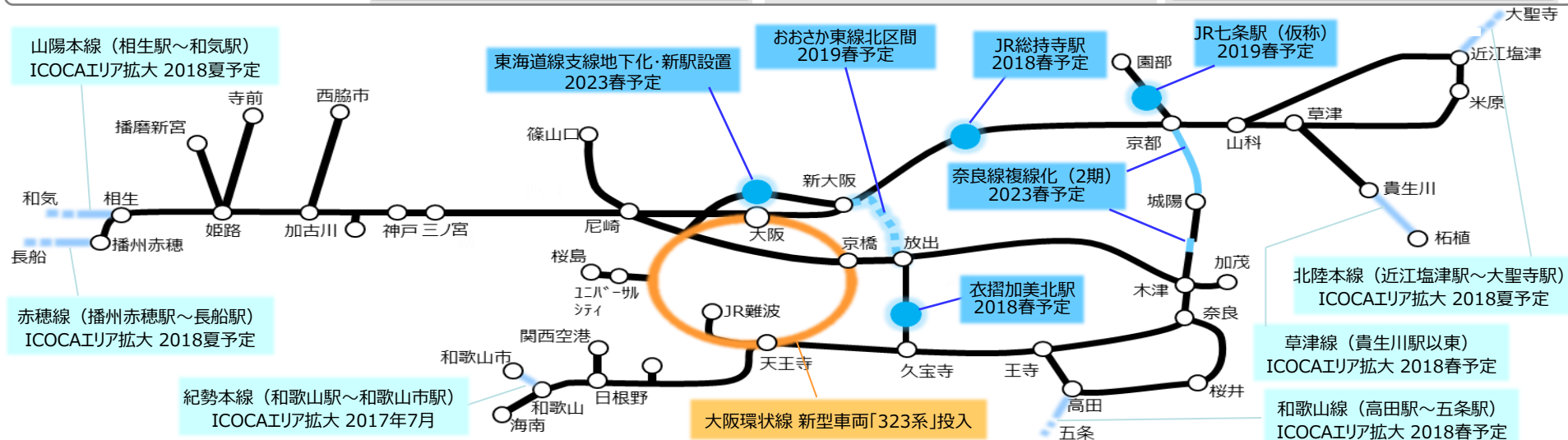
線区価値向上の取り組みや好調なお出かけ需要により、堅調な状況が継続。

# 運輸業：近畿圏等②

## 主な取り組み

		18年3月期 上期	18年3月期 下期	19年3月期以降
線区価値向上	新車投入	大阪環状線「323系」(計168両)、阪和線「225系」(計122両)		
	新駅設置		衣摺加美北駅、JR総持寺駅	JR七条駅(仮称)
	ICサービス拡充			ICOCA新ホ <sup>®</sup> ントサ <sup>®</sup> ビス、PiTaPa <sup>®</sup> スト <sup>®</sup> イ
	ICOCAエリア拡大	紀勢本線(和歌山駅～和歌山市駅)	草津線(貴生川駅以東)	山陽本線(相生駅～和気駅)
	鉄道ネットワーク拡充			おおさか東線北区分 東海道線支線地下化・新駅設置 奈良線複線化(2期) なにわ筋線

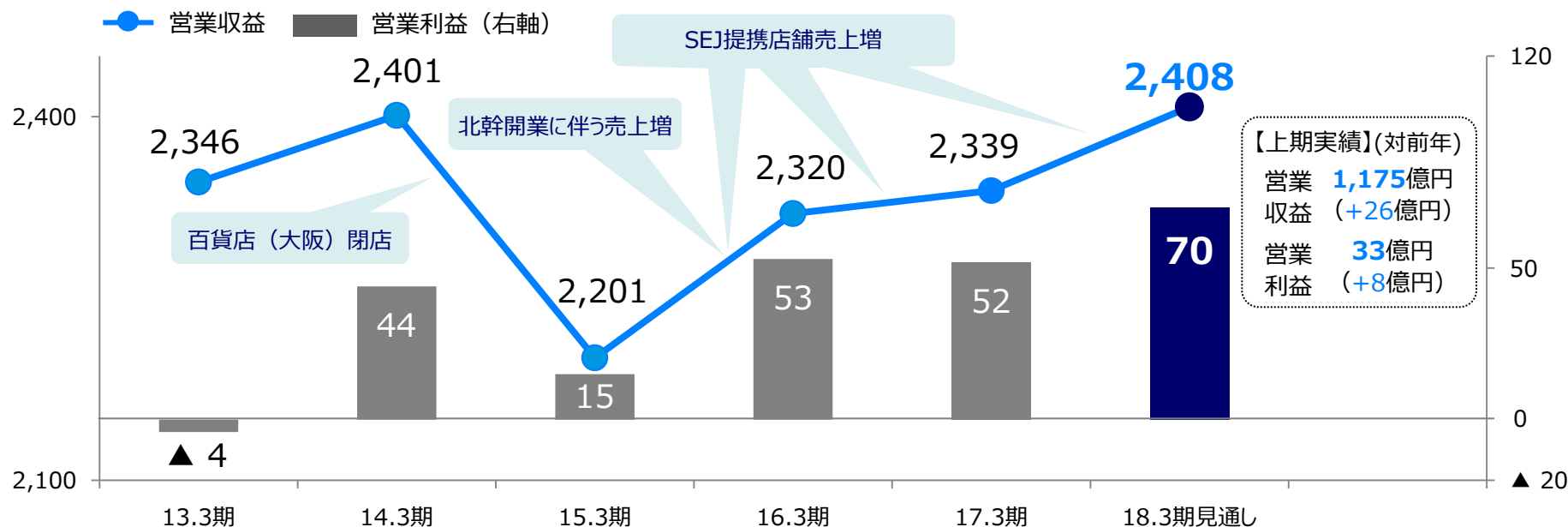
観光需要喚起	都市型観光	USJとの連携、京都鉄道博物館への集客	
	インバウンド	(→P.27)	
	観光列車	TWILIGHT EXPRESS 瑞風 運行開始	新たな長距離列車の導入



線区価値向上の取り組みを深度化、インバウンド等の観光需要を喚起し、ご利用拡大を図る。

## 業績の推移（通期）

（単位：億円）



## 主な取り組み

	18年3月期 上期	18年3月期 下期	19年3月期以降
<b>資産効率向上</b> セブン-イレブン提携店舗 駅ナカ開発	転換・新規出店 <b>11</b> 店舗 （9月末累計： <b>346</b> 店舗） 売上：約 <b>4割増</b> （転換前との比較） 膳所駅	新規出店の拡大 （目標：累計 <b>500</b> 店舗） 天王寺駅、茨木駅	 セブン-イレブン ハートイン JR金沢駅店
<b>強みのある事業の拡大</b> 宿泊特化型ホテル新規出店	(→P.24) 「ヴィアイン」稼働率 <b>91.2%</b> （18.3期上期実績、全店ベース 19店舗計）		

セブン-イレブン提携店舗は堅調に推移。宿泊特化型ホテルの稼働率は高い水準を維持。



# 【トピックス】ホテル事業の取り組み

上期  
実績

外部売上高**232**億円（昨年度**232**億円）

通期  
目標

外部売上高**476**億円（昨年度**470**億円）

## 主な取り組み

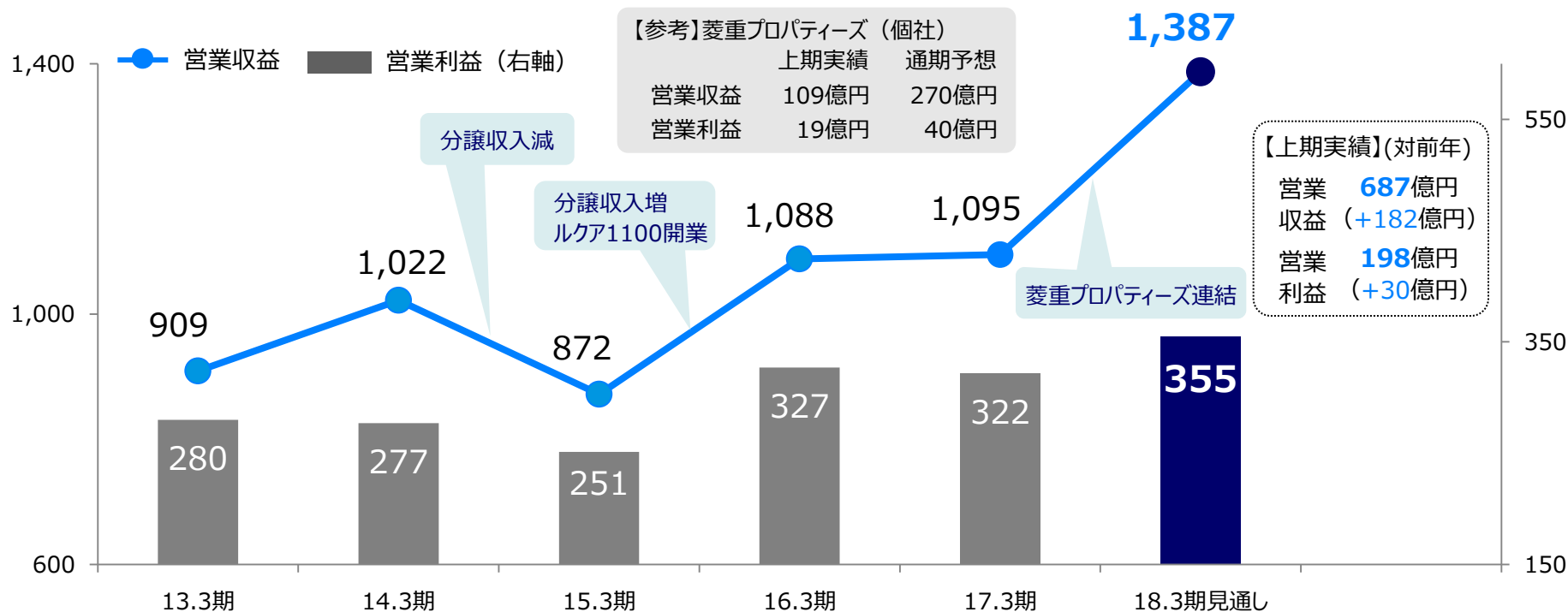
	18年3月期 上期	17年9月末累計	18年3月期 下期	19年3月期以降	
				出店数等	スケジュール等
<small>その他業</small> <b>グランヴィア等</b> （シティホテル）		<b>8店舗 2,650室</b> ※2店舗は非連結	三宮営業終了 （▲190室）	▲1店舗 ▲190室	18.6 尼崎リブランド
<small>その他業</small> <b>ヴィスキオ</b> （ハイクラス宿泊主体型ホテル）		-		<b>3店舗 1,020室</b>	18.6 大阪、尼崎※ 19春 京都 ※シティホテルからリブランド
<small>流通業</small> <b>ヴィアイン</b> （宿泊特化型ホテル）	天王寺（172室） 梅田（217室）	<b>19店舗 4,660室</b> ※2店舗はその他 1店舗は非連結		<b>7店舗 1,762室</b>	18夏 新大阪、名古屋 18秋 飯田橋 19春 京都、博多 19夏 心齋橋 19秋 日本橋
<small>非連結</small> <b>ファーストキャビン                      ステーション</b> （上質カプセルホテル）		-	天王寺（129室）	<b>1店舗 約70室</b>	18春 和歌山
<b>合計</b>		<b>27店舗 7,310室</b>		<b>37店舗 約9,900室</b> ※上記計画をすべて反映した場合	

宿泊特化型ホテルを中心とした新規出店により事業規模を拡大。

# 事業創造：不動産業

## 業績の推移（通期）

（単位：億円）



## 主な取り組み

		18年3月期 上期	18年3月期 下期	19年3月期以降
資産効率向上	SC リニューアル	ルクア1100地下1階改装	ルクア1100地下2階改装(1期:17年10月、2期:18年春予定)	 広島駅ekie（イメージ）
		アルデ新大阪 グランドオープン	広島駅ekie1期、広島駅ASSE	
強みのある事業の拡大	不動産賃貸・販売業	(>P.26)		

不動産販売は計画を上回るペース。菱重プロパティーズも順調に進捗。

# 【トピックス】不動産賃貸・販売業の取り組み

**上期実績**  
 ・販売戸数**256**戸（昨年度**113**戸）  
 ・賃貸開発面積 約**15,000**m<sup>2</sup> ※シエア勘案後

**通期目標**  
 ・販売戸数 約**700**戸（昨年度**435**戸）  
 ・賃貸開発面積 約**29,000**m<sup>2</sup> ※シエア勘案後

## 今年度以降の主な開発物件（共同事業含む）

賃貸：所在地、開業日(予定)、延床面積、用途 ※は共同事業  
 販売：所在地、引渡日(予定)、戸数 ●は菱重プロパティーズ物件

### 賃貸物件

西日本エリア	<b>JR金沢駅西第二NKビル</b>	石川県金沢市	17.4	約6,500m <sup>2</sup>	診療所等複合施設
	<b>広島八丁堀NKビル※</b>	広島県広島市	17年冬	約8,850m <sup>2</sup>	ホテル等
	<b>大阪北NKビル</b>	大阪府大阪市	18.6	約14,000m <sup>2</sup>	ホテル等
	<b>(仮称)JR岸辺駅ビル</b>	大阪府吹田市	18年秋	約27,019m <sup>2</sup>	物販・飲食・クリニック等
エリア外	<b>ピエラコート武蔵浦和</b>	埼玉県さいたま市	17.5取得	約4,031m <sup>2</sup>	マンション
	<b>名古屋名駅南開発</b>	愛知県名古屋市	17.10	約3,818m <sup>2</sup>	ホテル
	<b>名古屋市中区栄三丁目開発</b>	愛知県名古屋市	17年末	約2,823m <sup>2</sup>	ホテル

### 販売物件

<b>J.GRAN THE HONOR 下鴨糺の杜</b>	京都府京都市	17.6	99戸
<b>ジェイグラン甲子園口レジデンス※</b>	兵庫県西宮市	17.7	16戸
● <b>ディアエスタミオ垂水海岸通</b>	兵庫県神戸市	17.9	28戸
● <b>ディアエスタミオ福町アーバン</b>	大阪府大阪市	17.10	96戸
● <b>ディアスタ早稲田諏訪通り</b>	東京都新宿区	17.2	23戸
● <b>ディアスタ梶ヶ谷ヒルズ</b>	神奈川県川崎市	17.3	56戸
● <b>ファインレジデンス市ヶ尾ディアスタ※</b>	神奈川県横浜市	18.3	59戸
● <b>勝川サザンクラスα ※</b>	愛知県春日井市	18.3	158戸



広島八丁堀NKビル



大阪北NKビル



名古屋名駅南開発



J.GRAN THE HONOR 下鴨糺の杜



勝川サザンクラスα

賃貸、販売ともにエリア内での展開に加え、菱重プロパティーズ取得でエリア外進出を加速。

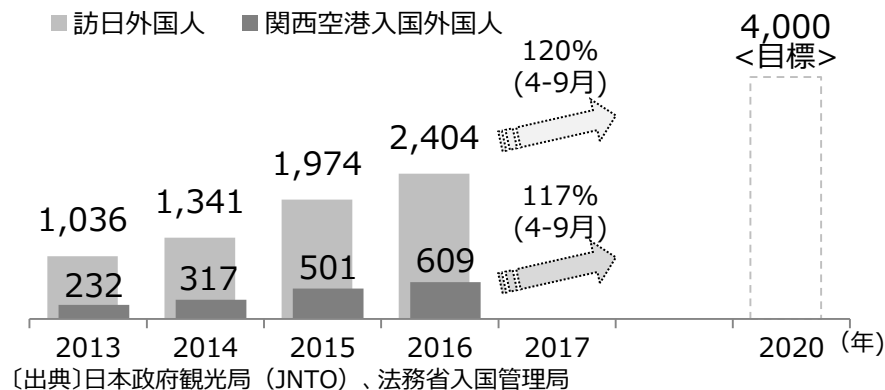
# 事業分野をまたがる取り組み：訪日観光客需要の獲得

**上期実績** ・ご利用者数 **75** 万人 (対前年 + **14** 万人)  
 ・連結営業収益 対前年 + **13** 億円

**通期目標** ・ご利用者数 **150** 万人 (対前年 + **25** 万人)  
 ・連結営業収益 対前年 + **20** 億円

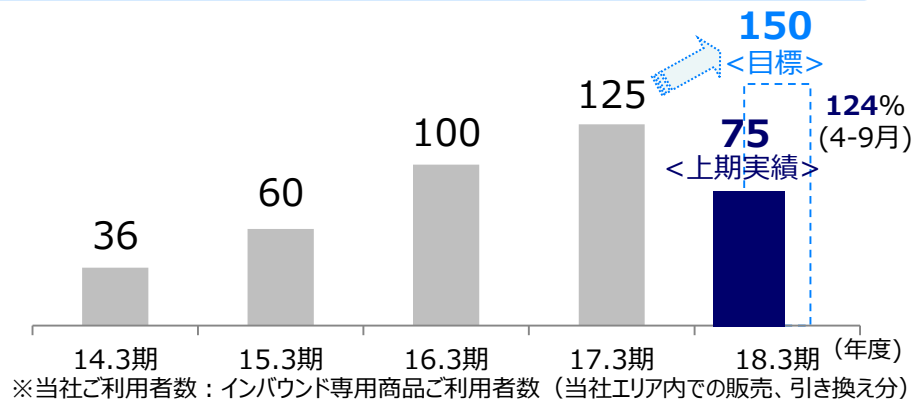
訪日外国人旅行者数の推移 (単位：万人)

(単位：万人)



当社ご利用者数※の推移 (単位：万人)

(単位：万人)



## 主な取り組み

	18年3月期 上期	18年3月期 下期	19年3月期以降
西日本各エリアへの誘客拡大	広域観光ルートの開発・整備等	地方空港入国者向け商品の発売 (岡山広島山口パス、鳥取松江パス) 他社と連携した広域周遊商品の発売 (山陽山陰北部九州パス) DMO (せとうち、山陰等) との連携	山陽山陰北部九州パス
	受入態勢の充実	トラベルサービスセンター大阪(3月) 関西空港駅販売体制強化(3月)	広島駅総合案内所リニューアル スマートEX英語版サービス開始 近畿エリア駅ナンバー導入
	プロモーション強化	関空～京都間荷物配送サービス実証実験	海外事務所・現地プロモーターを活用したターゲット拡大、SNSを活用した情報発信の強化

多面的な施策の推進により、ご利用者数は訪日外国人数を上回る伸びが継続。

I 2018年3月期 第2四半期決算実績

---

II 2018年3月期 通期業績予想

---

III 各事業の取り組み

---

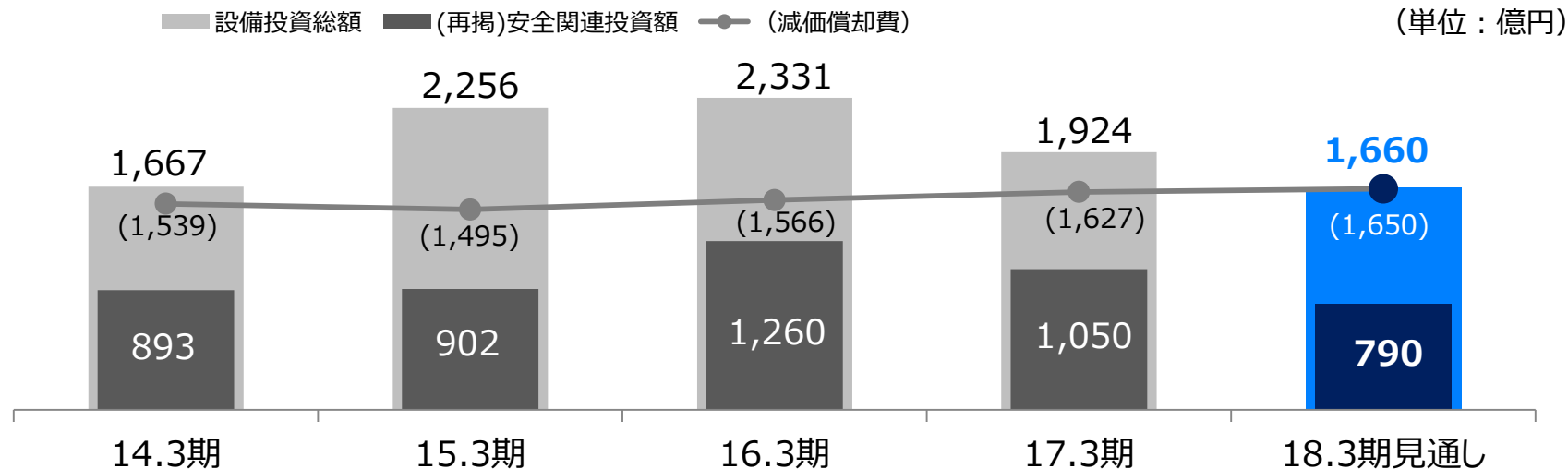
**IV 設備投資計画、株主還元**

---

V 次期中期経営計画に向けて

---

## 中計期間 設備投資額推移



### 中計期間 設備投資総額

総額9,840億円

成長投資  
2,790億円

事業の継続的運営に  
必要な投資 7,050億円

安全関連投資  
4,895億円

### 18.3期の主な設備投資案件

#### 成長投資

- ・新駅設置工事 ・シームレス化 (ICOCAエリア拡大)
- ・ルクア1100地下階改装
- ・ホテル新規開発 (梅田等)
- ・賃貸ビル開発 (名古屋栄等)

#### 安全関連投資

- ・車両取替・改造
  - 山陽新幹線 N700A 3編成投入
  - 近畿圏 (大阪環状線・阪和線)
- ・保安・防災対策
  - ホームの安全性向上
  - 地震・津波対策

### 第2四半期累計実績

593億円  
(対前年▲131億円)

※再掲  
安全関連投資 284億円  
(対前年▲120億円)

(減価償却費)  
798億円  
(対前年+13億円)

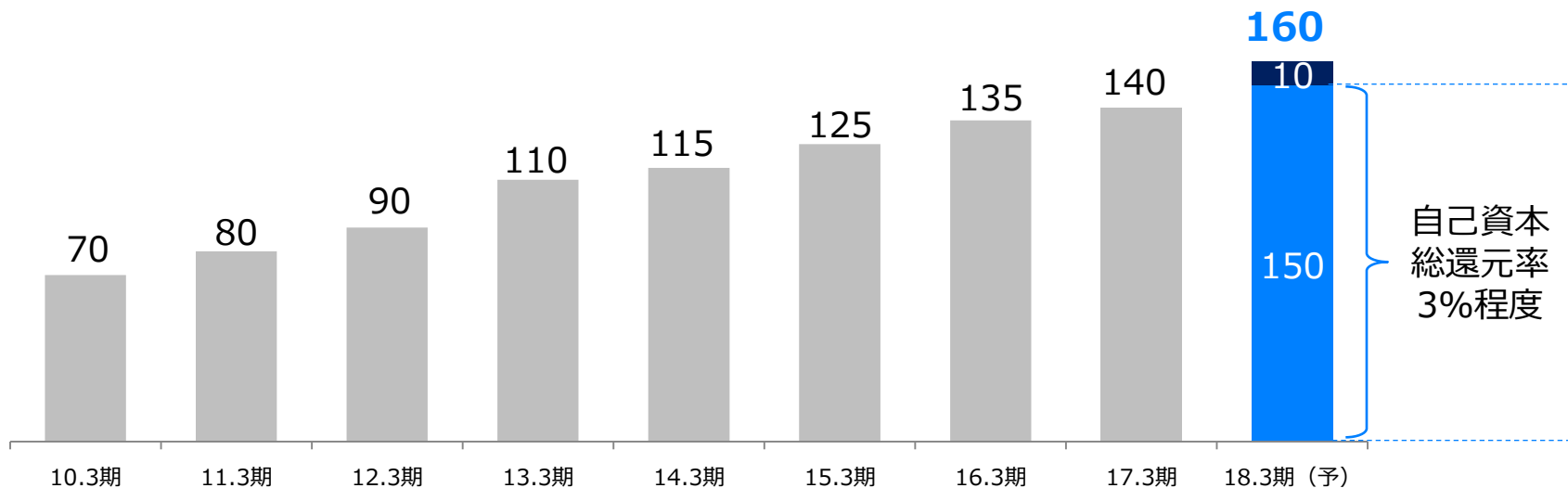
## 株主還元方針

- 長期安定的な株主還元を重視する観点から、引き続き、自己資本を勘案した株主還元を実施。
- 具体的には、本計画の達成状況を踏まえ、

**2018年3月期に、連結ベースでの「自己資本総還元率（※）」3%程度を目指す。**

※自己資本総還元率（%）＝（配当総額＋自己株式取得額）÷連結自己資本×100

## 1株当たり年間配当額の推移（円）



**8期連続増配（予想含む）、18.3期は自己資本総還元率3%程度を上回る還元水準。**

I 2018年3月期 第2四半期決算実績

---

II 2018年3月期 通期業績予想

---

III 各事業の取り組み

---

IV 設備投資計画、株主還元

---

**V 次期中期経営計画に向けて**

---



# 今中計における主要KPIの達成状況

主要KPI		今期見込み	中計目標	達成状況
連結営業収益	(億円)	14,970	14,230	↑
連結EBITDA	(億円)	3,517	3,255	↑
連結ROA	(%)	6.2	5.5	↑
連結ROE (参考)	(%)	11.3	9.8	↑
自己資本総還元率	(%)	3.2	3%程度	↑
運輸収入 (参考)	(億円)	8,640	8,205	↑

※安全・CSに関しては、中計目標の達成に向け、取り組み。

今中計で掲げた主要KPI（財務指標、株主還元）は、いずれも目標を大きく上回る見込み。

## 【経営の体系】

企業理念

経営ビジョン等

事業戦略等

### 現行中計

#### 経営の方向性

- ・「**経営ビジョン**」
  - 西日本地域の活性化に貢献
- ・「**私たちの使命**」を果たす
  - 鉄道を社会基盤として持続的に運営
- ・「**地域共生企業**」となる
  - 地域との交流、連携
  - グループ一体でエリアに即した事業展開

#### 具体的戦略

- ・**3つの基本戦略：安全、CS、技術**
- ・**4つの事業戦略**
  - **新幹線「高める」**：競争力強化 等
  - **近畿圏「磨く」**：線区価値向上 等
  - **西日本各エリア「活かす」**：
    - エリアに即した事業展開
    - 持続可能な地域交通の実現 等
  - **事業創造「伸ばす」**：
    - 資産効率の向上
    - 強みのある事業の拡大 等

### 次期中計

#### 経営の方向性

**大きな方向性として堅持**

#### 具体的戦略

- ・外部環境の変化と今中計で進捗した取り組みも踏まえ、具体的な戦略を策定
- **外部環境の変化**：
  - インバウンド需要のさらなる増加
  - 技術革新
  - 地方創生 等
- **今中計で進捗した取り組み**：
  - 菱重プロパティーズ株式取得 等



# 将来の見通しに関する注意事項

- 本スライドは、J R 西日本の事業、産業及び世界の資本市場についてのJR西日本の現在の予定、推定、見込み又は予想に基づいた将来の展望についても言及しています。
- これらの将来の展望に関する表明は、さまざまなリスクや不確かさがつきまとっています。通常、このような将来への展望に関する表明は、「かもしれない」、「でしょう」、「予定する」、「予想する」、「見積もる」、「計画する」、又はこれらに類似する将来のことを表す表現で表わされています。これらの表明は、将来への予定について審議し、方策を確認し、運営実績やJR西日本の財務状況についての予想を含み、又はその他の将来の展望について述べています。
- 既に知られた若しくははまだ知られていないリスク、不確かさその他の要因が、かかる将来の展望に対する表明に含まれる事柄とも大いに異なる現実の結果を引き起こさないとも限りません。JR西日本は、この将来の展望に対する表明に示された予想が結果的に正しいと約束することはできません。JR西日本の実際の結果は、これら展望と著しく異なるか、さらに悪いこともありえます。
- 実際の結果を予想と大いに異なるものとしうる重要なリスク及び要因には、以下の項目が含まれますが、それに限られるわけではありません。
  - 財産若しくは人身の損害に関する費用、責任、収入減、若しくは悪い評判
  - 経済の悪化、デフレ及び人口の減少
  - 日本の法律、規則及び政府の方針の不利益となる変更
  - 旅客鉄道会社及び航空会社等の競合企業が採用するサービスの改善、価格の引下げ及びその他の戦略
  - 地震及びその他の自然災害のリスク、及び情報通信システムの不具合による、鉄道その他業務運営の阻害
- 本スライドに掲げられたすべての将来の展望に関する表明は、2017年10月31日現在においてJR西日本に利用可能な情報に基づいて、2017年10月31日現在においてなされたものであり、JR西日本は、将来の出来事や状況を反映して、将来の展望に関するいかなる表明の記載をも更新し、変更するものではありません。
- なお、2005年4月25日に発生させた福知山線列車事故に関する今後の補償費用等については、現時点で金額等を合理的に見積もることが困難なことから、本スライドの見通しには含まれておりません。

当資料は、弊社ホームページでご覧いただけます。

JR西日本ホームページ「IR情報」 <http://www.westjr.co.jp/company/ir/>